



第41号 発行日 平成23年7月

日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

地域医療連携パスを効率的に運用するため、各協議会が設立されています。

今回は、5月・6月に開催された、脳卒中地域医療連携パスとがん地域医療連携パスの協議会について、ご報告します。

地域医療連携室 大沢 知佳

秋田道沿線地域医療連携協議会第5回集会 平成23年5月20日 於 湯沢ロイヤルホテル

特別講演

テーマ「生活期リハビリテーションの現状と行政の方向性」

要旨

生活期（維持期）のリハビリテーション（以下、リハビリとする）は、生活機能の維持や介護負担の軽減のために重要である。しかし、医療・介護職のリハビリに対する認識の甘さや、マンパワー不足による提供サービスの未成熟により、十分に行われていない現状がある。

継続的なリハビリに向け、内閣府では、リハビリの日数制限が見直しされている。その一方で、超高齢化社会や国民医療費の増加により、リハビリが混合診療に変わる可能性や、経済産業省が「医療生活産業」として民間サービスを検討していることを危惧している。



講師：大湯リハビリ温泉病院
院長：小笠原 真澄先生

検討会

テーマ「病院間転入時に問題となる背景疾患重症例の検討」

県立リハビリテーション・精神医療センター（以下、リハセンとする）へ転院となった頸髄損傷患者が、転院当日、呼吸状態の悪化のため、紹介元の病院へ再入院となった事例を通し、転院の適応や時期、病院間の情報交換のあり方について検討されました。

各医療機関における機能や役割分担を明確にし、患者の立場に立った療養の場の選択と、そのための綿密な情報交換・連携が求められています。

実務者懇親会

リハセン、仙北組合総合病院、雄勝中央病院、当院の合わせて4施設から、脳外科病棟の看護師と理学療法士、地域医療連携実務者、計19名が参集し、「脳卒中連携パス」の運用上の問題について討議しました。

リハセンより、転院時の患者情報は、病室を決定する際に非常に重要であることが説明され、予約申し込み時と転院時のADLの変化を共有するための方法について検討しました。

転院に際しては、患者の到達目標を明確にし、転院後、スムーズにリハビリが開始できるよう連携を強化していくことを確認しました。

平鹿総合病院がん連携パス協議会 平成23年6月20日 於 シャイニーパレス

平成23年4月1日、東北厚生局より、がん地域医療連携パスの運用が認可されました。これを受けて、平成23年6月20日、平鹿総合病院がん連携パス協議会が開催されました。協議会は平鹿総合病院、横手市医師会、横手保健所、横手市地域包括支援センターから選出された委員で構成されています。

今後、協議会では、がん患者さんが安心して療養生活を送ることができるよう、パスの運用に関して必要な事項が検討されます。